

民鉄協ニュース No.3

2021年6月4日

新会長に野本弘文（東急電鉄株式会社取締役会長）が就任

日本民営鉄道協会（東京都千代田区）は、本日6月4日（金）の理事会において、新会長に野本弘文^{のちひろふみ}（東急電鉄株式会社取締役会長）を選任しました。

なお、前会長の和田林道宜^{わだばやしみちよし}（近畿日本鉄道株式会社代表取締役会長）は5月28日（金）の総会において退任しました。新会長の略歴は下記のとおりです。

略 歴

- 氏 名 野本 弘文（のちと ひろふみ）
- 生年月日 1947年 9月27日生
- 職 歴 1971年 4月 東京急行電鉄株式会社入社（現：東急株式会社）
2003年 4月 同社 経営統括本部メディア事業室統括室長
2004年 4月 イッツ・コミュニケーションズ株式会社
代表取締役社長
2007年 6月 東京急行電鉄株式会社 取締役
2008年 1月 同社 常務取締役
2008年 6月 同社 専務取締役
2010年 6月 同社 代表取締役 専務取締役
2011年 4月 同社 代表取締役社長
2018年 4月 同社 代表取締役会長（現在）
2019年10月 東急電鉄株式会社 取締役会長（現在）



野本会長就任ご挨拶

このたび、日本民営鉄道協会の会長に選任されました東急電鉄の野本でございます。

これからの二年間、会員各社とともに、民営鉄道事業を取り巻く諸課題に積極的に取り組み、鉄道のもつ公共的な使命にしっかりと応えていけるよう協会運営にあたってまいりる所存ですので、これまでと変わらぬご理解、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

昨年より国内でも感染拡大している、新型コロナウイルス感染症については、ワクチン接種の普及など、感染防止と社会経済活動の両立に向けた兆しが見えつつあるものの、本年4月下旬以降、一部の都道府県において3回目の緊急事態宣言が発令されるなど、未だ収束の目途が立たない状況であります。

そのような情勢の中、鉄道事業は公共交通として国民生活や経済活動を支える重要なインフラとして、社会機能維持のため、終始事業継続が求められてまいりました。

また、感染防止のためのガイドラインに沿って、車内換気や消毒などの業務継続に向けた体制の整備、マスク着用や控えめな会話などの各種感染防止対策の利用者への呼びかけ、情報提供を行い、さらには、終電繰り上げや減便などの要請にも対応して、安全で安心感のある鉄道を目指し、国民の皆さまの期待に応えるよう努めてまいりました。

しかしながら、感染防止するためには、人と人との接触を極力減らすことが重要だということで、人の動きや流れが止まり、鉄道をご利用のお客様は大きく減少しております。各社の経営状況を見ますと、昨年度決算では大きな損失を計上しており、今年度も厳しい見通しであることを含め、まさに未曾有の危機に直面しているところであります。

さらに、このコロナ禍を契機として、人々のライフスタイル、ワークスタイル、そして消費行動は大きく変化しています。鉄道需要は、コロナ禍が収束した後も、以前のように戻らないことが想定されます。

すでに各社において色々と取り組みを進めているところではありますが、急速に進展するデジタル化にもしっかり対応し、人々の行動様式の変化を的確に捉え、事業の効率化を進めるとともに、新たな価値を創出していくことが、これまで以上に重要になるものと思います。

また、従前からの課題である人口減少と高齢化、気候変動に伴う大規模な自然災害への対策はもちろん、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けた対応など、ESGへの取り組みについても、高度な対応を求められるものと考えております。

そのような中で、会長という重責を担うことになり、身の引き締まる思いです。鉄道に期待される公共的使命の重さを自覚しながら、これからも、より安全・安心で、快適・便利な民営鉄道の持続的発展を目指し、会員各社をはじめ関係者の皆さまの一層のご理解とご協力をいただけるよう、新型コロナウイルス感染症対策を始め様々な課題に緊張感をもって、日夜取り組んでまいります。

皆さまには、私どものこのような取り組みに対し、引き続きこれまでと変わらぬご理解、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

以 上